

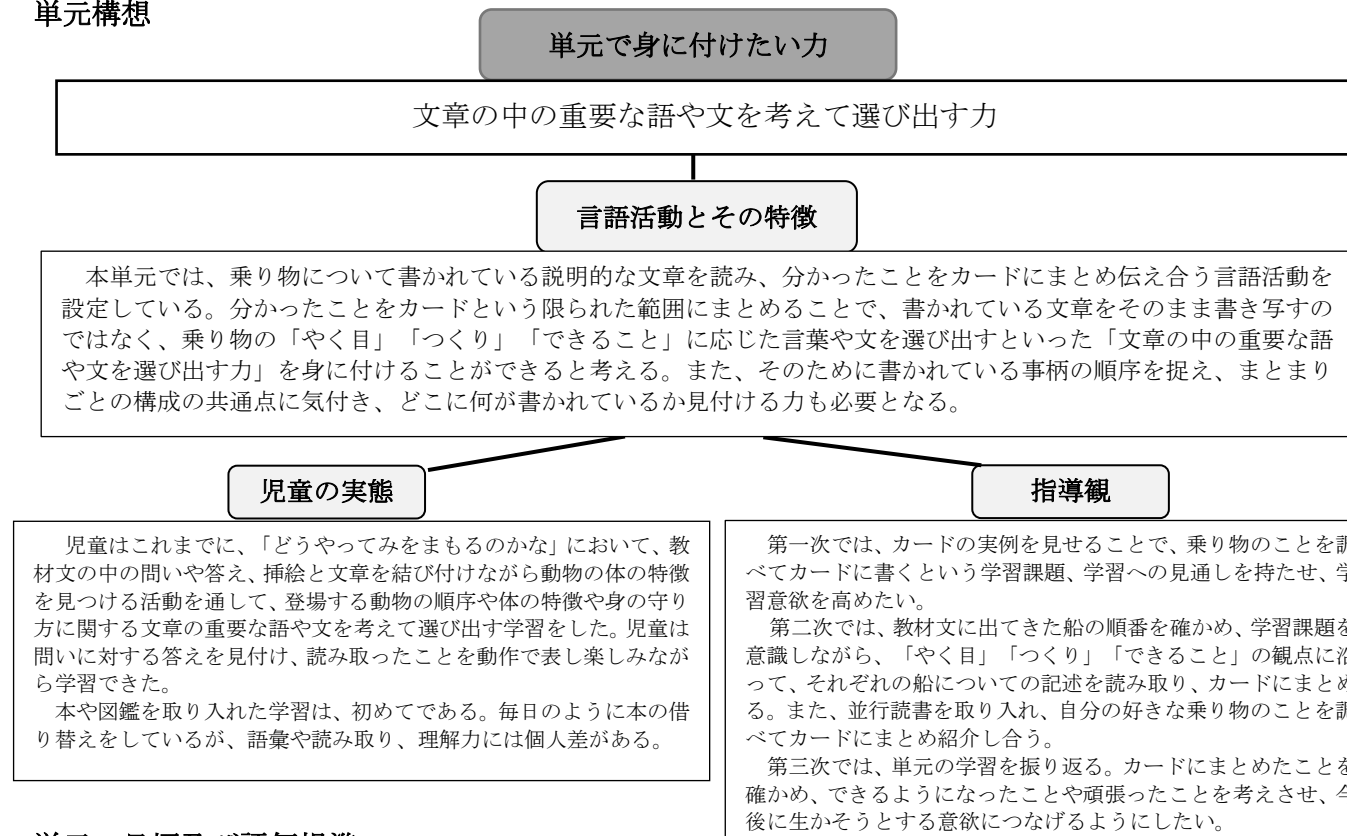
# 第1・2学年 国語科学習指導案

(第1学年)

【令和3年10月27日(水) 第6校時 大用小学校 1学年:4名 2学年:3名 計7名 授業者 沖本 夕起子】

## ◆単元名「いろいろなふね」

### 1 単元構想



### 2 単元の目標及び評価規準

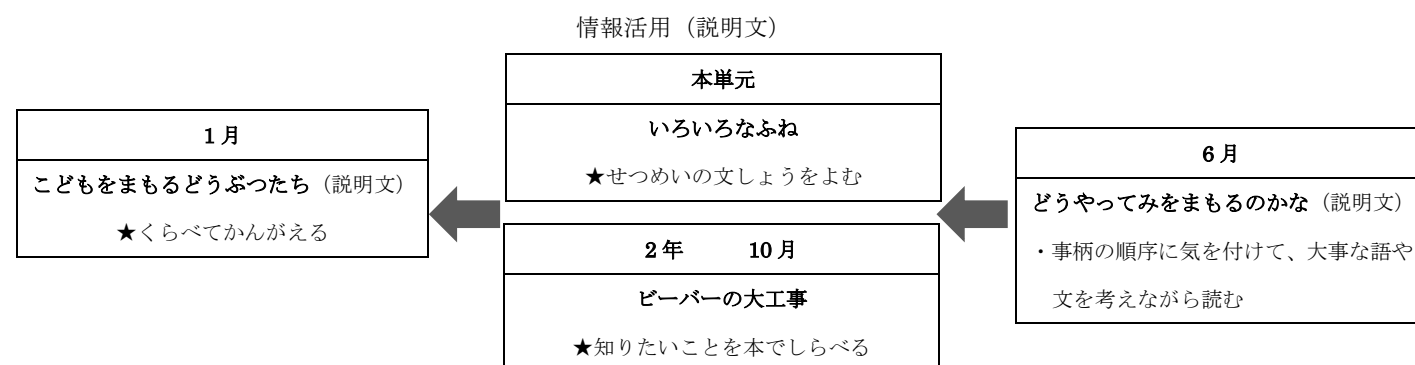
#### (1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解できる。…(2)ア	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。…C(1)ウ	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。…(2)ア	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選びだしている。…C(1)ウ	これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しを持ち、積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめて伝え合おうとしている。

### 3 単元の系統性



### 4 研究主題に関わって

研究主題：確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成

- 国語の見方・考え方を働かせる手立てを焦点化させる。
  - ・見方・考え方をどの場面で働かせたいのかを考え、意図的に設定する。
- 自分や友だちの考えを働かせる手立てをする。
  - ・読み聞かせを聞いたり、物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動を設定する。
- 家庭学習(特に予習)を授業の中で生かす場面をつくる。
  - ・意図的に家庭学習を生かす場面をつくる。

### 5 学習の流れ〔全13時間〕

学習過程	主な学習内容及び学習活動	評価の計画及び評価規準、評価の方法	言語活動
第一次(つかむ)	① 乗り物のことをカードに書くという学習課題を確かめて、単元の見通しを持つ。 ・カードの実例を見て、学習課題をつかむ。 ・「いろいろなふね」と並行して、他の乗り物について書かれた図鑑や本を読んでいくことを知る。		乗り物について書かれている説明的な文章を読み、分かったことをまとめて伝え合う。
第二次(取り組む)	② 「いろいろなふね」を読み、読み取ったことをカードにまとめる。 ・全体の構成や例示部分の構成、説明に使われている基本的な文型を押さえる。 ・学習課題を意識しながら、「やく目」「つくり」「できること」の観点に沿って、それぞれの船についての記述を読み取り、カードにまとめる。	【知識・技能】 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。…(2)ア 発言・ノート	
	③ ほかの乗り物のことを調べて、カードにまとめる。 ・これまで読んできた本の中から、何について調べるかを決めて、書かれていることを読み取り、カードにまとめる。 …【本時 11/13】	【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選びだしている。…C(1)ウ 観察、ノート、カード	
	④ 調べたことをまとめたカードを紹介し合う。 ・みんなで紹介し合い、感想を交流する。	【主体的に学習に取り組む態度】 これまでの学習や経験で気づいたことやできるようになったことを生かして見通しを持ち、積極的に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、読んで分かったことをまとめて伝え合おうとしている。発言、ノート、カード	
第三次(振り返る)	⑤ 単元の学習を振り返る。 ・書かれている事柄ごとに読み取ってカードにまとめたことを確かめ、できるようになったことや頑張ったことを考えさせる。		
単元終了時に目指す児童の姿			
○読み取った中から必要な言葉や文を選び、カードに書いている姿			

〈第2学年〉

◆単元名「同じところ、ちがうところ」

1 単元構想

単元で身に付けたい力

二つの物を比べて分かったことを事柄の順序に沿って書く力

言語活動とその特徴

本単元では、身近にある二つの物の共通点と相違点を文章に書いて紹介し合う言語活動を設定した。二つの物を比較した内容を明確に伝えるためには、同じところと違うところを分けて書くことが大切である。観点ごとに比較して分かったことを表にまとめることで、共通点と相違点が明確になり、事柄を整理して文章に書くことができるようになる。

児童の実態

児童はこれまでに、日常の遊びや体験、学習などを通じて様々な知識や情報を体得しており、それらをもとに、比較・対照する力も徐々に身につけてきている。しかし、その判断は直感的、感覚的であることが多い。二つの物を比べて、形が丸い、四角と簡単な言葉や文で表すことはできて、みんなに伝わるように文章を書くことは苦手な児童もいる。また、語彙力、理解力、表現力等、個人差もある。

指導観

第一次では、似ているけど違うものを発表し、学習課題を明確にして、学習の見通しを立てる。単元の導入を工夫し、二つの物を比べて発見する楽しさを感じさせ、発見したことを伝えたいという思いを持たせるようにしたい。  
第二次では、教科書に挙げられた例を参考に比べる物を決め、「田中さんの表」を参考に、表を用いた整理の仕方を確認する。比べて分かったことを表に書き、整理して文章に書く。表にすることは慣れていないので、比べる観点について分かりやすいようにしたい。  
第三次では、文章を読み合い、観点を決めて比べたり整理したりして書くことよさを共有したい。

2 単元の目標及び評価規準

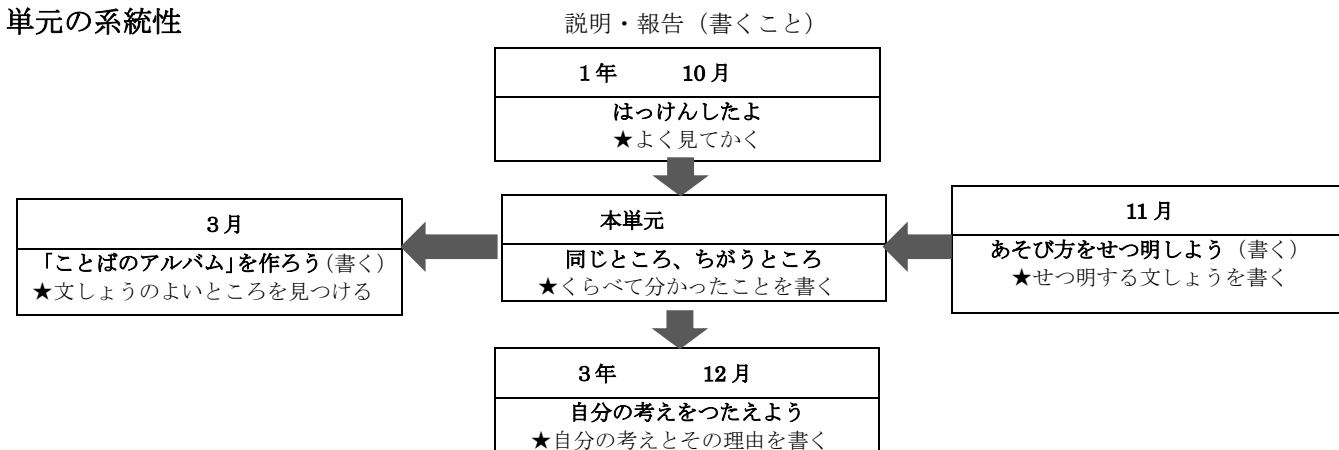
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解できる。…(2)ア	「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。…B(1)イ	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。…(2)ア	「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。…B(1)イ	これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで二つのものについて観点を決めて比較して書くために必要な事柄を集めたり確かめたりして、分かったことを説明する文章を書こうとしている。

3 単元の系統性



4 研究主題に関わって

研究主題：確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成

- 国語の見方・考え方を働かせる手立てを焦点化させる。
  - ・見方・考え方をどの場面で働かせたいのかを考え、意図的に設定する。
- 自分や友だちの考えを働かせる手立てをする。
  - ・読み聞かせを聞いたり、物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動を設定する。
- 家庭学習(特に予習)を授業の中で生かす場面をつくる。
  - ・意図的に家庭学習を生かす場面をつくる。

5 学習の流れ(全 5時間)

学習過程	主な学習内容及び学習活動	評価の計画及び評価規準、評価の方法	言語活動
第一次(つかむ)	①「二つの物を比べて、分かったことを書く」という学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。 ・似ているけど違うものを発表し、どこが同じでどこが違うか、説明する意欲を高める。		
第二次(取り組む)	②二つの物を比べ表にまとめる。 ・教科書に挙げられた例を参考に、何と何を比べるかを決める。 ・「田中さんのひょう」を見て、比べる観点を明確にして表に整理すると分かりやすいことを確かめ表を用いた整理の仕方を確認する。 ・比べる観点を考えて二つの物を比べ、表に書き出す。	【知識・技能】 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解できる。…(2)ア 観察、表、文章	身近な二つの物を比べて、同じところ、違うところに分けて整理し、文章を書く。
	③比べて分かったことを整理した文章の書き方を考える。 ・「田中さんの文しょう」を参考に、どのように整理して書くか分かりやすいかを考える。		
第三次(振り返る)	④比べて分かったことを整理して文章に書く。 ・比べた物の紹介、同じところ、違うところに分けて整理し、文を書く。 …【本時4/5】	【思考・判断・表現】 「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。…B(1)イ 文章	【主体的に学習に取り組む態度】 これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで二つのものについて観点を決めて比較して書くために必要な事柄を集めたり確かめたりして、分かったことを説明する文章を書こうとしている。…観察、発言
	⑤みんなの前で発表する。 ・文章を読み合い、二つの物のどんなところを比べてか伝え合い、観点を決めて比べたり気づいたことを整理したりして書くことよさを共有する。 ⑥単元の学習を振り返る。 ・学習したことをどのように生かしていきたいかを確かめ、今後の学習意欲を高める。		
<p>単元終了時に目指す児童の姿</p> <p>○二つの物を比べて分かったことについて構成を考え、共通点、相違点のまとまりで書いている姿</p>			

(1) 目標

調べたことから三つの観点に応じた言葉や文を選び、カードに書くことができる。

比べて分かったことについて構成を考え書くことができる。

(2) 展開

学習活動及び学習内容	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (★)	教師の動き		学習活動及び学習内容	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (★)
				時間			
1. 前時の振り返りをする。	※3つのことをカードに書きました。3つのことはどんなことでしたか。 ・「やく目」「つくり」「できること」 ・やく目に合わせて、「つくり」や「できること」が分かる。	○いよいよ自分のカードを作るという意欲を高めるようにする。		0	1. 前時の 振り返りをする。	※段落ごとに、どんなことを書いていますか。 ・一段落は、くらべたもの ・二段落は、同じところ ・三段落は、ちがうところ	○「田中さんのひょう」と「田中さんのぶんしょう」を見て、構成に着目し、どのように文章化しているかを思い出させる。
2. 本時のめあてを確認する。					2. 本時のめあてを確認する。		
「やく目」「つくり」「できること」にあったことばやぶんをえらんでカードをつくらう。							
3. 前時までに調べた情報を整理し、カードに書く内容を確認する。	・やく目…「～のための」 ・つくり…「あります。」「つんでいます。」 ・できること…「～をします。」「～できます。」	○それぞれの観点で着目させたい言葉を引き出す。		7	2. 本時のめあてを確認する。		
4. 必要な言葉や文を選び、カードに書く。	※「いろいろなふね」で作ったカードを参考に、カードを作らう。	○作ったカードを掲示する。  ★思・判・表		15	表をもとに、二つのものをくらべて分かったことをせいりして文しょうを書こう。		
5. 2人組で、確かめる。	※二人組で読み合って、確かめよう。	○「3つの観点で書けているか」「常体で書けているか」を確認させる。		30	3. 表から構成を考え、文章を書く。	※表をもとに、一段落はどのように書きますか。 ・ぼくは、( )と( )を比べました。  ※第二段落、第三段落も書いてみよう。 ・表を同じところと違うところを色分けしてみよう。	○何と何を比べたかを、発表させる。  ○第二段落は同じところ、第三段落は違うところ、複数ある場合は数も示すとよいことを確認する。  ★思・判・表
6. 本時の学習を振り返る。				40	4. 書いた文章を発表する。  5. 本時の学習を振り返る。		

直接指導

間接指導

(3) 準備物

作ったカード・カード・見直しポイント (掲示用)

「田中さんのひょう」「田中さんの文しょう」 (掲示用)

(4) 板書計画

十月二十七日  
めあて

やく目

なにをするためのものなのでしょう。

は、 ための  です。

つくり

なにがあるでしょう。

があります。

なにをつんでいるのでしょうか。

をつんでいます。

できること

どのようなことができるのでしょうか。

ます。

カードの例

しらべたことをまとめてカードをつくらう。

十月二十七日  
めあて

だい三だんらく・・・ちがうところ  
ちがうところは、

だい二だんらく・・・同じところ  
同じところは、

りおんくん・・・  
せなくん・・・  
らいむくん・・・

ぼくは、 と  をくらべました。

ひょうをもとに二つのものをくらべて、わかったことをせいりして文しょうを書こう。